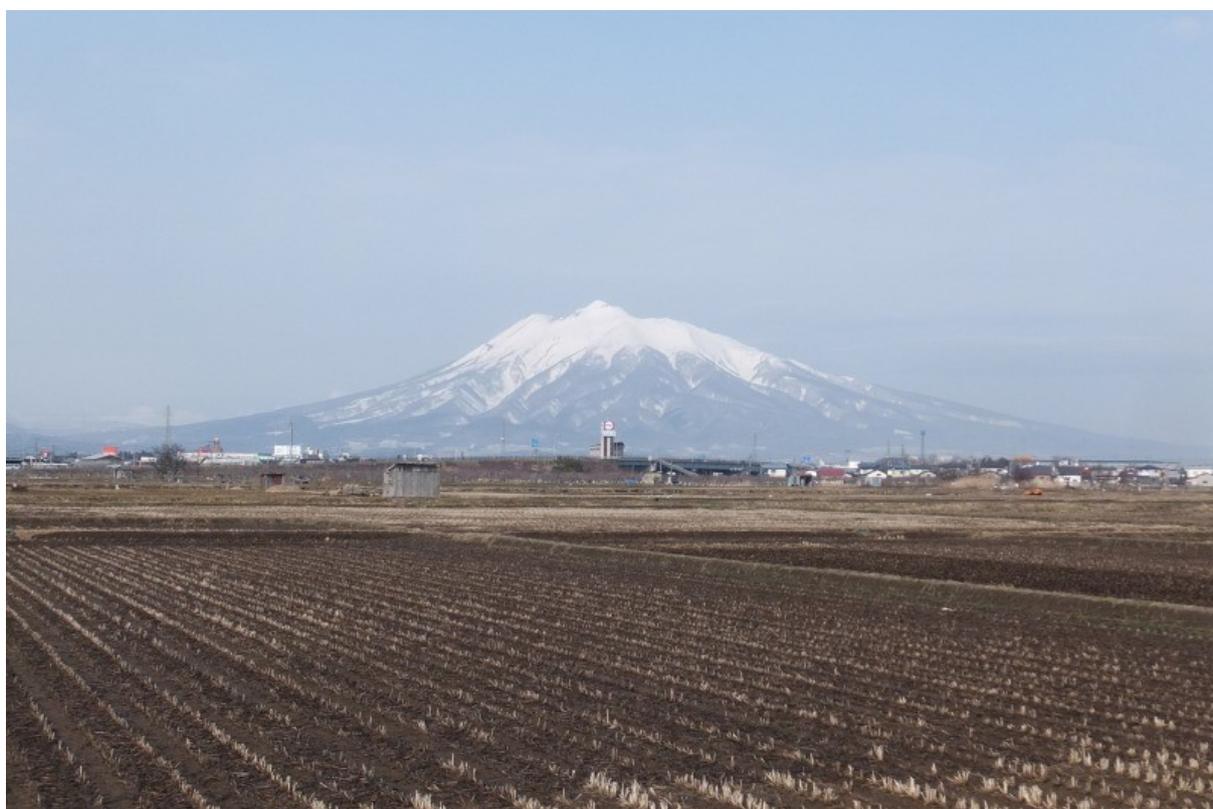


岩木山を考える会
2016年度総会議案書



日時：2016年4月3日(日) 13時30分～
場所：弘前市民参画センター

2016年度岩木山を考える会総会次第

日 時 : 4月3日(日)13:30~15:30

場 所 : 弘前市民参画センター

次 第

13:30 司会による開会宣言

副会長あいさつ

議長選出

13:40 議事

第1号議案 2015年度活動のまとめ

会計監査報告

第2号議案 2015年度収支決算報告

第3号議案 2016年度活動方針(案)

第4号議案 2016年度予算(案)

14:30 質疑応答・意見交換

15:25 議案採択

15:30 閉会宣言

お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

第1号議案 2015年度活動のまとめ

1. 岩木山をめぐる情報・活動報告

<4月>

- ・ 3/15に嶽から登った。前日が雨で氷が木についてきれいだった。9合目から上はアイゼン装着。山頂奥院はまだ屋根が頭を少し出しているくらい。(花田)
- ・ 砥上沢右岸尾根を900mくらいまで登ってきた。40本ほどのホッカイドウトドマツの林があった。(齋藤)

<5月>

- ・ 赤倉神社登山道出发点の橋は、神社と信仰者の浄財で作ったとのこと。(齋藤)
- ・ 4月下旬、弥生から登った。跡地の沢はニホンザリガニがたくさんいそうな状態だった。(齋藤)
- ・ 柴柄沢右岸を登ったところ、3合目あたりナラが優勢な場所に1m以上の巨大なぶながありびっくりした。(齋藤)
- ・ 赤倉沢左岸は雪庇になっており、雪が多かった。(齋藤)
- ・ 岩木山頂、鳳鳴小屋、焼止避難小屋に、4月半ば頃、救急防災用具を設置したとのこと。取られたりしていないか確認が必要だ。(竹浪)

<6月>

- ・ 5/28(木)白沢左岸を上り詰めて追子森頂上へ。頂上から200mほど手前の大崩落現場を見てきた。去年から崩れていたものが、いくらか拡大していた。雪の上に崩れた岩が転がっていた。残雪はほとんどなく、かろうじて1000m付近の沢筋に残っている程度。(齋藤、竹浪)
- ・ 平沢の上部にタケノコ採り。600mを超えたあたりにいくらか生えていた。(竹谷)

<7月>

- ・ 6/21、スカイライン8合目のアオモリドマツを観にいったところ、枯れていた(ように見えた)。きちんとした調査が必要。(竹浪)
- ・ 6/19、赤倉登山道伯母石ではじめてミヤマハンショウヅルを見た。大鳴沢源頭はまだ雪がぎっしり。赤倉御殿付近からミチノクコザクラがパラパラ咲いていた。(藤原)
- ・ 湯ノ沢堰堤補強工事の作業道が出来ている。木を伐っているので監視が必要。(阿部)

<8月>

- ・ 7/9(木)アオモリドマツの様子を見に行ったら(阿部、花田、竹谷、齋藤、竹浪)。結果、枯死が確認された。その後、鳥海山頂のコマクサの状況調査をし、繁殖していないことを確認した。その旨を、県自然保護課、弘前市観光政策課、津軽森林管理署、岩木スカイライン(株)に伝えた。7/10付の陸奥新報が報道した。(竹浪)
- ・ 7/9(木)岩木山スカイラインレストハウス内の男子トイレに、外来種の花の写真を飾ってあったので、帰り際に梅原専務に対して、地元の花の写真と入れ替えるべきではないか、と進言した。写真も提供することにし、後日花田幹事から岩木スカイライン(株)に届けた。(竹浪)
- ・ 7/9(木)鳥海山頂での調査時にハエが飛んでいるのが気になった。後日、阿部幹事よりハエの発生原因が山頂のトイレにあるようだとの情報あり。会として確認する必要がある。(竹浪)
- ・ トイレのハエは日赤パトロールにも伝えた。北海道の登山客が見て、トイレにびっしりついていたと、知人から電話が来た。北海道はトイレをやめて携帯トイレを使用するようになっている。対策が必要

だ。(阿部)

- ・ 8/4(火) 弥生登山道を6合目まで齋藤と竹浪で歩いた。道標が倒れているのは整備が必要。また、4～5合目にかけて道がはっきりせず、迷う可能性もあることから、リボンをつけるなどの手立てが必要だ。全般にわたって道にササや木が覆い被さるなどしている箇所があちこちに見られた。道確保のためササなどの刈り払いをある程度行った。(齋藤、竹浪)
- ・ パトロールに刈り払いを聞いたところ、長平コースは伐ってきたとのこと。弥生のコースはほとんど登山者がいないのではないか。なくてもよいのでは、と言っていた。(阿部)

<9月>

- ・ 岩木山頂上にハエがいる問題で安藤県議が自然保護課に質問をしたところ、全然いないとの回答があったとのこと。薬剤を散布したらしい。(バイオトイレが機能しているかどうか、チェックが必要)(阿部)
- ・ 嶽湯ノ沢の堰堤補強工事をするため、湯ノ沢右岸のとりつきに通ずる道路が出来た。まだ工事は始まっていないようだ。監視が必要。(阿部)
- ・ 長平のたんぼの畔にゴマシジミが発生した。(阿部)

<10月>

- ・ 9/10 嶽巨木の森登山道を歩いた。分岐間もなく藪が出現。湯段沢へ降りる径は藪に次ぐ藪。倒木で前進できない。藪をかき分け湯段沢へようやく降りた。湯段沢の右岸は、左岸ほどではないが沢からとりつく径が初心者ではわからない。また深いぬかるみもあった。整備が必要だ。(竹浪)
- ・ 9/16 嶽スカイライン～山頂～弥生登山道6合目～山頂～嶽スカイラインを歩いた。4合目、5合目、6合目、大岩の標柱が倒れている。修復が必要。6合目から8合目にかけて笹が生えてきていた。9合目近くのトラバース部分は径が崩壊しており修復が必要。山頂トイレの横にペンキ缶が廃棄されている。芳名避難小屋の入り口が壊れて戸が閉まらない。ベッドも崩壊。頂上にハエはいなかったが、途中、殺虫剤のようなものが登山道わきに点々とぶら下がっていた。これは何か。弥生登山道5合目から4合目に降りる途中迷いやすい部分あり。標識必要。(竹浪)
- ・ 9/26 火山防災と対策の講演会に参加した。土石流を抑える対策を雲仙普賢岳を例に説明があった。(齋藤)
- ・ 10/4 エコPJ 参加。50名ほどが集まった。嶽街道中心に実施。ごみの量は少なくなっているようだ。(齋藤)

<11月>

- ・ 10/3後長根沢の堰堤3基の工事完了のニュースあり(東奥日報)。
- ・ 10/21後長根沢に行った。カモシカがいた。写真撮影(齋藤)
- ・ 赤倉登山道26番観音付近崩落の危険アリ(齋藤)
- ・ 弥生登山道4～5合目中間部分、下りが迷いやすい。標識を付ける必要あり。(齋藤)

<12月>

- ・ 11/22 後長根沢、湯段沢堰堤工事調査。後長根沢堰堤工事では、一番上の堰堤の上部に巨岩がごろごろしており、これがどうなるかが心配。湯段沢堰堤工事では、当初伝えられていた、護岸の強化、という話と違っていたこと。水抜き穴がすぐ塞がってしまうだろうが、これは想定内のことだろうと想像した。上流からはそんなに土砂は流れてこないのではないかと感じた。今後どうなっていくか、見守りが必要。足湯の井戸掘りでは、掘り上げられた泥はきちんと管理されていた。(阿部、齋藤、竹浪)
- ・ 赤倉登山道1300m付近のがけ崩れ。観光政策課に電話しておいた。(齋藤)
- ・ 嶽登山道から巨木の森に抜ける径。孫を連れて行ったが、とても行けずに戻ってきた。(工藤)

<1月>

- ・ 1/10 嶽登山道を8合目ターミナルまで行ってきた。積雪が少ない。巨木の森分岐で積雪100cmほど。ブナが途切れる1100mあたりから上も灌木がたくさん顔を出していた。小雪ということもあってか、スノーモービルなどが入った跡はなかった。雪はまだ締まっておらず、吹き溜まりなどでは腰までぬかる状況。(竹浪)
- ・ 平沢の400～500mあたりのスギ・カラマツを伐採している。伐採後どうするつもりだろうか。(竹谷)

<2月>

- ・ 1/30 嶽登山道を山頂まで行ってきた。8合目までスキー、そこからワカン。鳳鳴小屋の改修状況の検分が目的の一つ。お粗末な工事につながりした。ドアの隙間から風雪が入り込み、中は雪まみれだった。もっと厚手のがっしりとした引き戸。隙間から雪が入り込まないような工夫が必要。取っ手も両手で力をかけられるような大型のものをつけてほしい。(竹浪)

<3月>

- ・ 3/20 弥生いこいの広場から弥生登山道4合目まで歩いてきた。新たな登山道をつけるためには何回か足を運んでコースを定める必要があると感じた。(竹浪)
- ・ 4/2 赤倉登山道を26番観音付近まで歩いてきた。崖の崩落の様子は見られなかった。スノーモービルの走行跡はなかった。(竹浪)
- ・ 4/1 弥生いこいの広場から4合目付近まで三角形に歩いてきたところ、サルを2匹観察した。(齋藤)

2. 2015年度のまとめ (太文字部分が方針です)

(1) 月1回幹事会を開催する(毎月第1火曜日午後7時市民参画センター) 会員の参加自由

【まとめ】

毎月第1火曜日という幹事会の定例化が確立しており、4月から毎月、合計12回の幹事会が開催されました。議長は毎回幹事が交代で行っています。出席者と欠席者が固定化している傾向があります。会員の自由参加はありませんでした。

(2) 岩木山講座を観察会・シンポジウムも含め年7回、一般市民の参加のもと行う。

①係を決め写真の記録を残す

②参加者の感想文を募る(依頼する)

残した写真、いただいた感想文は会報に掲載しました。

【まとめ】

年間を通じて5回の岩木山講座を開催しました。今年は、岩木山近辺にこだわらず、岩木山を遠くから眺めることも含めて企画しました。講座を通じて、自然、歴史、文化など多様な側面から岩木山をともに考えあう機会を持つことができたように思います。バスの定員があふれたため、やむなく参加をお断りした回もありました。講座を実施するにあたり、あらかじめ参加者の万が一を想定し、年間の団体保険に加入しました。シンポジウムは実施しませんでした。

岩木山講座①松代(小白沢)の山野草観察会

日程 5月10日(日) 9時～12時 参加人数20名

集合 ミズバショウ沼駐車場

(振り返り)

花がとても楽しめて、好評のうちに終えた。

エゾリュウキンカの群落を楽しめた。オニグルミの花を橋の上から目の前で観察できた。

参加費合計4000円 経費:資料代1100円、ガソリン代1600円、残を雑収入に入れた。
岩木山講座②弥生スキー場跡地観察会(弘前市「弥生いこいの広場隣接地利活用に係る自然観察会」と兼)

日程 6月21日(日) 10時～12時 参加人数25名

集合 弥生いこいの広場駐車場

(振り返り)

5家族12名(子ども7名)が参加。当会幹事からは阿部、竹谷、齋藤、竹浪の4名。会員の奈良岡氏、松本氏、ウォッチングの石戸谷氏、高橋氏が講師として参加。弘前市からは古川課長以下5名の職員が参加。総勢25名。コープあおもりの豚汁提供で昼食後、午後から弥生ネットの調査活動を実施した。

岩木山講座③岩木山史跡めぐり

日程 9月13日(日) 8時～14時 参加人数24名

集合 コープあおもりと徳店駐車場

(振り返り)

参加者24名。約10名お断りした。

時折雨に降られたが、講師の興味深いお話を聴くことができた。バス出発時刻を9時から8時に変更したのが運転手に伝わっておらず、連絡を密にする必要がある。会計:収支差し引き4596円の持ち出し。

岩木山講座④梵珠中腹から岩木山を眺める～紅葉とキノコ汁～

日程 10月18日(日) 10時～13時 参加人数24名

集合 梵珠県民の森駐車場

(振り返り)

岩木山が見えてよかった。キノコ汁もよかった。梵珠山は下刈りをしてしまっており、中間の木がほとんどない。下の環境が変わってしまった。梵珠山側の空き地は楡の林だったのが、ほとんど伐られてしまい、柳などが残っているくらい。森の管理のあり方としてどう考えるか?

岩木山講座⑤岩木山の雪山観察会～平沢右岸尾根～

日程 3月13日(日) 9時～12時 参加人数14名

集合 岩木運動公園駐車場

(振り返り)

ツルの巻き方を見てきた。右巻き、左巻きが観察できた。

(3)岩木山写真展を例年のように行う

【まとめ】

岩木山のいろいろな姿を市民に紹介する機会の一つとして、今年もNHKギャラリーで開催しました。出展者も出展数も去年より増加しました。入場者は昨年度並みでしたが、この写真展のために出かけてきてくださる人がいることは、今後の励みになりました。今年も特設コーナーを設け、岩木山講座の様子を写真、文章で紹介して会をアピールしました。入場者からは、動物の写真が少なかったとの声が出ていました。13名の方から差し入れをいただきありがとうございました。会への加入お誘いのチラシを作成し、記帳簿の横に置きましたが、新たな加入者はありませんでした。今年は目録を作成しませんでした。

日程:2月5日(金)～7日(日)

会場: NHK 弘前ギャラリー

入場者数 248名(去年 252名) 1日目:62名 2日目102名 3日目84名

出展者数 22名 出展数69点(去年16名 出展数 65点)

(4)岩木山の自然調査を進める

①市民参加の観察会や調査会を行い、結果を記録し残す

【まとめ】

- ・ 5回の岩木山講座の実施、弥生跡地の自然回復調査、長平湿原調査、嶽農村公園付近の刈り払いとゴマシジミの繁殖状況の把握等を行いました。(各項目に記載)

②弥生跡地の動植物調査をウォッチング青森と協力し行う

【まとめ】

- ・ 6月21日(日)、当会が加入している弥生スキー場跡地を考える市民ネットワーク(以下、弥生ネット)が2011年から継続している、弥生跡地の毎木調査、動物調査、植物調査を実施しました。毎年得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です。今年度の毎木調査では、昨年11月から6月までの間に対象木30本の幹回りが平均1.8cm太くなっていることが確認されました。また、植物調査では、ウォッチング青森の会員に協力いただき、198種の植物をカウントしました。11年からの延確認種数は309種になります。
- ・ 6月23日(火)、野鳥調査を実施しました。6月に新たに観察した鳥は3種(ハイタカ、ツツドリ、トラツグミ)でした。
- ・ 6月8日、21日に実施した生物調査では、甲虫類、両生類など25種が確認されました。
- ・ 11月22日(日)に、秋の毎木調査を実施しました。6月から11月にかけての成長は2.2cmでした。11月18日に野鳥調査も実施しています。観察された野鳥は22種類。初めて観察された鳥はミソサザイ、キクイタダキ、ハシボソガラスでした。野鳥調査は2013年から始め、この3年間で53種が観察されています。

③長平登山道の湿地調査を継続して行う

【まとめ】

- ・ 7月12日(日)、鯉ヶ沢スキー場に11名が集合し実施しました。今年の調査には、弘前や青森の植物調査を行っている方々も加わってくださいました。そのため、多数の新たな発見がありました。湿地帯では、植物73種(うち、今年新たに確認されたもの43種)、動物ではチョウを中心に6種が確認されました。
- ・ 確認された種を専門家に同定を依頼したところ、2013年採取のゲンゴロウが青森県で初記録であることが判明しました。

④個人による調査への協力と援助

種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)

【まとめ】

- ・ 弥生跡地観察会終了後、参加した子供たち二人が、チョウや虫の取り方を教えてほしいと、阿部幹事宅に相談にきました。岳温泉の裏山で昆虫採集を実施し、とても喜ばれました。

(5)岩木山登山の安全に寄与する

①登山道整備を関係機関に働きかける

【まとめ】

今年も、岩木山環境保全協議会の場で、登山道整備をはじめとした岩木山の保全・整備等に関して意見を述べました。そのこともあってか、登山道や避難小屋等に対する一定の対策がとられるなど、前進が見られました。協議会の総会は6月10日(水)に岩木中央公民館で開催されました。以下、総会に提案した当会の意見とそれに対するこれまでの対応について記載します。

(ア)入山ポスト設置の件

入山ポストの設置については、去年の総会で当会から提案し検討され、その後9～10月にかけて当会と観光政策課の間で情報交換をしました。この経過の中で、当会にも情報提供を求められました。

それを受けた当会からの提案を以下の通り整理して紹介します。

御嶽山の噴火をはじめ日本の火山が活動期に入った様相を呈している現在、入山者の把握の重要性はますます高まっています。入山ポストの早急な設置を希望します。

■当会の提案■

- ・なぜ入山ポストが必要か(略)
- ・入山ポスト設置場所等について(略)
 - <設置場所案>(略)
 - <設置方法>(略)
 - <ポストの仕様>(略)
 - <その他>(略)

<回答>

観光政策課長：関係機関と相談したい。

(ア)については、岩木山観光協会等の関係機関と協議します。(6/12観光政策課)

(イ) 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

昨年7/31に当会が登山道のすぐそばの急斜面が大崩落していることを確認し、県自然保護課と弘前市観光政策課に報告しました。県、市もすぐ調査に入っていただいた結果、危険と判断され、赤倉神社登山道入口付近に立て看板を設置し注意を喚起すると共に、現場にピンクリボンと、黄色の危険テープを張るなど、通行者に危険を喚起する措置をしました。しかし10月頃には立て看板に貼ってあった注意書きはなくなり、危険喚起の黄色テープもなくなりました。あるのはピンクのリボンだけです。これから大雨により地盤が緩み登山道まで崩落する可能性があります。危険喚起の看板設置とテープを張り巡らすことは必須だと考えます。

<回答>

(イ)については、あの場で結論が出ませんでした。予算も限られており、優先順位を考えながら、対応していきたいと思います。(6/12観光政策課)

(ウ) 焼止、鳳鳴小屋整備の件

去年整備を提案しましたが、昨年度の事業にはならなかったようです。避難小屋には県内だけでなく県外からの登山者が入ります。岩木山の印象を悪くすることになっているのではないのでしょうか。今年は実施するのでしょうか。

以下、(略)

<回答>

観光政策課長：鳳鳴小屋、焼止小屋ともに今年度予算がついたので修繕を進めたい。百沢登山道に倒れている標柱の修復も行う予定。

(ウ)については、竹浪様のメール文面とおりです。(6/12観光政策課)

その後、改修が実施されたが、鳳鳴、焼止ともに簡易修繕で、鳳鳴の貧弱な入口、冬季、焼止の2階入口に入るために足掛かりとなるコンクリート庇の破損放置など、今後さらに改善が求められる。

(エ) 百沢、弥生等、登山道整備の件

(1) 去年は、弥生登山道について刈り払いを実施してもらえることになりました。ご配慮ありがとうございます。去年は、弥生登山道について刈り払いが実施されたわけですが、他の登山道も含め、定期的な刈り払いをすることが必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。また、長平登山道は弘前市の管轄ではありませんが、やはり同じ事が言えます。

(2) 去年、流水で道路が掘られてしまっている登山道に対する効果的な対策の必要性について、議論がありました。是非、実現する方向で検討をお願いします。

<回答>

(エ)については、整備する箇所を整理したうえで、山岳遺産の助成金(採用されれば、次年度の予算として使えます。)も踏まえて、検討を進めていきます。(6/12 観光政策課)

この件については、その後10月26日に協議会が招集され、2016年度予算をつけて整備する方向の報告があった。6月以降、実地検分をしながら必要な整備をすることになった。

(オ)御嶽山噴火に伴う、危険予防措置について

- (1) 避難小屋に救急防災用具を設置したとの情報を得ましたが、どのような備品が設置されたのか、その利用の手続き等はどうなるのか、などを教えてください。当会では、出発地点に置いて利用してもらうようにするべきではないかという意見が出されていました。
- (2) 危険な状態が発生したときに、どのような行動を取ればいいのかなどを分かりやすく説明をしたりリーフレットなどがあれば、啓蒙に役立つと思いますがいかがでしょうか。作成していなければ作成してはいかがでしょうか。
- (3) 岩木山には噴火に備えた観測施設はあるのでしょうか。あるとすれば、そこで異常が観測された場合などの情報発信システムはどうなっているのでしょうか。教えてください。

<回答>

観光政策課長:もう少し時間がほしい

(オ)については、市防災安全課の所管であり、そこから情報をとらないと回答できないので、時間をいただきたいです。現状を把握したうえで、資料をお渡ししたいと思います。(6/12観光政策課)

(オ)について、防災安全課からの回答を、別添のとおりお送りします。(以下略)(6/16観光政策課)

A1. 平成27年4月28日(火)に岩木山避難小屋3箇所(山頂休憩所、焼止まりヒュッテ、鳳鳴ヒュッテ)へ火山灰対策用品として、ヘルメット6個・ゴーグル6個・防塵マスク6枚・救急箱及びタフキャリア(容器)を1セットとして、山頂避難小屋と焼止まりヒュッテに2セット、鳳鳴ヒュッテに1セット搬入しました。

救急箱には、傷・骨折・やけどの症状ごとに使用用品を区分したバックが入っております。使用の手続き等については必要ありません。万が一使用された際には速やかに避難小屋か防災安全課へ返却をお願いいたします。

登山はあくまで自己責任において行われるものでありますので、自己の生命を守るために万全の準備とルールを守ることをお願いいたします。

A2. リフレットはありませんが、岩木山火山ハザードマップが青森県によって作成されており、随時希望者に配布しております。また、市のホームページにも岩木山火山ハザードマップの掲載と入山の際の注意事項や仙台管区气象台へのリンクを貼り付け、月単位での火山活動の情報やカメラ画像で岩木山の状況が確認できるように情報発信しております。

万が一、危険な状態が発生した際には、枯木平から弥生北口までほぼ半円形(主要地方道岩木山環状線に添うように)で整備されている防災行政無線やスカイライン8合目ターミナルのスピーカーを用いて情報伝達を行います。

登山中にいつもと違う活発な噴気・地鳴りや地震、何らかの異変を認めた場合には、市または警察に連絡いただき、すみやかに下山するなどの避難をお願いいたします。

A3. 岩木山は噴火の前兆を捉えて噴火警報等を適確に発表するために、気象庁仙台管区气象台火山監視・情報センターでは地震計・傾斜計・空振計・GPS観測装置・遠望カメラ等の火山観測施設を整備し、火山活動を24時間体制で常時観測・監視しています。噴火等の兆候が見受けられた場合には、青森地方气象台から県などに速やかに通報されます。市では県からの通報又は要請を受け、その内容によって災害対策本部等を設置し、ただちに防災行政無線や広報車等のほか、各部や各総合支所を通じ、住民や地域の町会長などへの連絡や避難所開設などの対応を行います。

(以上、防災安全課)

救急防災用具については、その後、当会としても避難小屋に備えているものを確認した。(ヘルメット、防塵メガネ、マスク、救急用品、その他)

★この問題と関連して、気象庁青森地方气象台が当会にコンタクトを求めてきた経緯を以下に記します。

- ・ 10/29 気象庁青森地方气象台火山防災官から電話があり、岩木山に地震計などを設置した

いので説明をするので意見を伺いたい、とのこと。急ぎよ30日に参画センターで会った。鳥海山先端に広域地震計、百沢焼止小屋の横にある平らな部分に傾斜計を設置したいとのこと。観測機器の設置自体には反対するものではないが、鳥海山先端のハイマツ等の伐採には反対。現在裸地になっている部分に設置すべきと提言。傾斜計設置予定場所は、以前底雪崩があり小屋が崩壊した場所であることを指摘。現在の小屋の付近への設置を提言した。(小堀、阿部、竹浪)

- ・その後、地震計、傾斜計の設置はまだ実施されていない。

(カ) スカイライン路肩崩壊現場修復について

現在、修復工事が始まっているようですが、進捗状況を教えてください。

<回答>

梅原寛(株)岩木スカイライン代表取締役:崩れている部分の上方に落下しかかっている石などがあるため、上の方も含めて危険対策の工事をしている。壁の修復は岩木山ヒルクライムレースまでにはめどをつける予定。

その後、修復が終了したことを確認。

(キ) 環境保全の啓発活動について

岩木山を訪れる方々に、保護地区でのマナーなど環境を保全する考え方を身につけてもらうためには、やはり子どもの頃からの啓発・教育が必要です。最近では、登山口から子どもたちが登山をすることも少なくなりました。登山活動を通じて、山を大切にする思想を身につけてもらいたいと思います。そのために、市の事業の一つとして、親子登山教室を開催し、親子のふれあいと共に登山のマナーと環境保全の大切さを伝える機会とすることを提案します。ガイドや講師が必要になるので、当会も協力を惜しみません。山岳会など岩木山に関わる他団体からも協力は得られるのではないのでしょうか。

<回答>

観光政策課長:とても良いお話で感謝したい。教育委員会とも相談しながら検討をしたい。

(キ)については、良い提案だと考えております。既に高橋から教育委員会に伝えてあります。貴会に協力を賜ることが出てきましたら、よろしく願いいたします。(6/12観光政策課)

(キ)ですが、教育委員会の学務健康課からの情報だと、遠足等の行先は各学校に任せておりますが、岩木山は危険を伴う場合もあることもお伝えしなければいけない、とのことでした。(6/12観光政策課)

(ク) 死亡事故について

去年の11/29に行方不明になった方が、5/14に岩木山頂上から東側に200m下がったあたりで死体で発見されたとの報道がありました。今後の遭難対策上、事故の詳細について差し支えない範囲でお知らせ下さい。

(略)

② 岩木山に関する情報を会員・岩木山パトロールと協力しながら市民に伝える

【まとめ】

(ア) 弥生スキー場跡地・弥生いこいの広場整備の件

- ・2015年3月26日(木)行政経営課より連絡があり、弥生跡地を担当する管轄が公園緑地課に変更となるとのことでした。急ぎよ打ち合わせを行い、2015年4月9日に公園緑地課との懇談を実施しました。その結果、弘前市として弥生跡地の観察会を6月21日(日)に開催することになりました。

- ・弘前市(公園緑地課)との意見交換を8月25日(火)に行いました。

岩木山を考える会からの参加者:小堀、阿部、竹浪

市が主催する観察会を2回に増やす件については、了解した。

観察道路については、これから当会としても検討、提案していくことにした。

- ・弘前市が「弥生いこいの広場整備活用に係る懇談会」を組織し、当会事務局長竹浪(兼弥生ネット事務局長)が懇談会メンバーとなりました。懇談会の趣旨は、動物広場を中心とした施設のリニューアル計画、具体的には動物広場の整備拡張とハイランドハウスの改修(建て替え?)に関する意見

聴取です。

- ・ 12月3日(木)第1回懇談会、2月4日(木)第2回懇談会、3月16日(水)第3回懇談会が開催されました。当会の基本姿勢は、以下の3点で、これに沿って発言しました。
 - (1)改修名目とはいえ、新たに大型箱物施設を建設することには反対する。
 - (2)現在地に通年施設を作ることはムリがあるので反対する。
 - (3)弥生スキー場跡地と一体となった活用で、豊かな自然に触れられるような散策道の設置などを提言する。
- ・ 3月16日に開催された第3回市民懇談会で、「弘前市弥生いこいの広場整備基本計画(案)」が発表されました。動物広場の整備拡充、ハイランドハウスの新築、ピクニック広場の整備拡充他、かなり大掛かりな計画(案)となっています。しかし全体の予算規模などが明らかにされていないため、実際どこまで実現できるか不明です。税金の無駄遣いにならないよう市民の目による監視が必要です。

(イ)岩木山頂にハエがいる問題

- ・ 夏に、会員より岩木山頂トイレにハエがびっしりついているとの知らせがあったため、ハエの動向に留意してきました。この間、薬剤のようなものも確認してきているので、10月に開催された岩木山環境保全協議会で指摘し、薬を撒いたのではないかと言ったら、ハエはいない。へふり虫だと出席者の一人が言い張りました。阿部幹事は昆虫の研究者です。間違うわけがありません。鳥海山にはハエがいました。大切な頂上付近で薬を撒くと、生態系に影響する危惧があります。引き続き、動向に留意する必要があります。

(ウ)岩木山嶽コースに雪上車・スノーモービルを走らせようとする企画

- ・ 嶽登山道に雪上車とスノーモービルを走らせ、誘客復活するとの話が出てきました。厳冬期2/1から実施するとの話だったので、環境保全協議会の場で反対だと主張しました。その後、岩木山観光協会より、津軽森林管理署が許可を出さなかったとの知らせがありました。

(エ)岩木山地熱資源開発事業について

- ・ 弘前市都市環境部スマートシティ推進室から、6月1日に説明会を開催するとの案内が入り、当会より小堀、竹浪が出席しました。小規模な地熱発電が嶽地区で可能かどうかの試掘をしたいとの説明。嶽旅館組合の方々から質問などが出されていました。当会としては環境汚染につながらないような対策を講じること、貴重な自然を壊すことのないような掘削地点の選定をすることなどの意見を述べました。
- ・ 現在、嶽地区の足湯のある場所が掘削現場となっています。掘り上げられた泥・水などは貯留したものを搬出しており、外部には漏れ出ていないようです。
- ・ 3月、市による試掘は地熱発電の条件となる150℃の熱源に突き当らなかったと、地方紙が報道しました。弘前市より、4月8日に岩木山地熱資源開発調査業務の報告会を実施する旨の案内が来ているので、出席する予定です。

(オ)後長根沢堰堤増設工事完了の件

- ・ 10月に後長根沢に増設していた3基の堰堤建設工事が完了したとのニュースが流れたので、11月22日(日)に工事結果を見に行きました(阿部、齋藤、竹浪)。一番上の堰堤の上部に巨岩がごろごろしており、これから大雨などでこれらがどうなるかが心配だと、共通意見を持ちました。状況を見守っていく必要があります。

③ゴミ拾い等環境美化に協力する

【まとめ】

- ・ 岩木山エコプロジェクトは岩木山観光協会が実施している岩木山をきれいにする活動です。今年

は6月5日(日)と10月4日(日)に実施しました。それぞれ50名ほど参加しました。親子連れや若い方々の参加が多く、冷蔵庫1台、テレビ2台、タイヤなど。道路沿いはビニールや吸い殻など。全部で軽トラ1台分ほどのゴミが集まりました。当会からは竹谷、齋藤両幹事が参加しました。

(6) 嶽・ミズバショウ沼のススキの刈り払いをし、ゴマシジミの保護を進める

【まとめ】

- ・ 今年7月7日(火)に低灌木とカヤの刈り払いをしました。阿部幹事を中心に幹事会から6名が参加しました。刈り払いは2005年から続けてきましたが、刈り払いによりワレモコウの繁殖が維持されている結果、青森県内ではほとんど見ることができなくなっているゴマシジミの生存を保つことができています。貴重な環境の維持を引き続き図る必要があります。同時に、観察会などで保護の大切さを知ってもらうことも必要です。
- ・ 当会ではこの取り組みを阿部幹事が、11月に開催された東北自然保護のつどい福島大会で報告しました。

(7) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

【まとめ】

今年も藤原幹事が編集長となり、紙面企画と原稿の割り振りを行いました。予定通り、4月27日、8月28日、12月21日の三回発行することができました。執筆依頼を幹事だけでなく、観察会参加者にも個別にお願いしました。小倉幹事が入力・レイアウトを担当しています。

会報の印刷発送作業は、毎回幹事が参画センターに集まり、みんなで行っています。

(8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。

【まとめ】

ホームページの更新を再開しました。主に会報のアップですが、必要な情報をその都度更新しています。ぜひ、ホームページをご覧ください。フェイスブックでは、行事の紹介などを中心に行っています。

ホームページ <http://www.iwakisan.jp/>

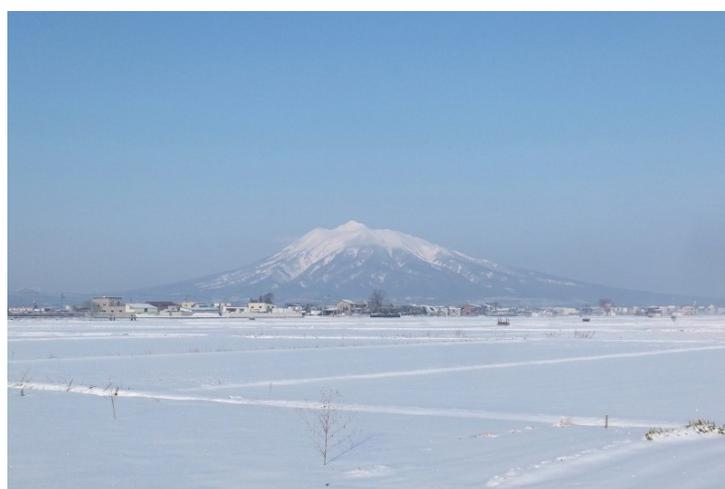
フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索で見られます。

(9) 東北自然保護の集い福島大会へ参加する。

【まとめ】

- ・ 11月14日(土)～15日(日)にかけて、福島県郡山市郡山温泉を会場に今年の集いが開催されました。この集いは、東北各県回り持ちで民間の自然保護団体が年1回一堂に会し、その地方、その時々の焦眉の課題をテーマにして意見交換をしているもので、集会后その年のアピールを採択しています。民間団体の集会ですが、行政からの位置づけも高く、今回は来賓として郡山市の副市長が挨拶をし、林野庁からは関東森林管理局の計画保全部長が全日程参加していました。当岩木山を考える会からは7名が自家用車2台で参加し、学習と交流を深めました。
- ・ 青森からは当会の阿部東幹事が、「ゴマシジミ発生地保護とススキ刈り払いの効果」と題して報告を行いました。その後全大会と、アピール採択に向けた議論を行いました。採択されたアピールの概要は以下の通りです。
 1. 東北地方のすべての原子力発電所、原子力施設は速やかに廃炉、廃止とすること。
 2. 除染等によって発生した放射性廃棄物は国、東京電力が責任を持って処理することは当然であり、地方へ押し付けることは速やかに撤回すること。

3. 再生可能エネルギー開発は地産地消を前提に、自然と共生、同化した施設に限定すること。
 4. ダムなど人工物に頼った防災には限界がある。地形や先人たちの知恵に基づき、自然への畏敬を持った治山、治水対策に万全を期すこと。
 5. 地域での野生鳥獣との軋轢や生態系の変化が深刻化しており、特に福島第一原発事故に伴う避難町村やその周辺地域における効果的な対策を国、東京電力は実施すること。
 6. 国有林における保護林制度の改定に伴う、具体的な制度の策定、運用については地元自然保護団体との連携も含め慎重に進めること。
- ・ 青森から参加した7名は、まとめてオプション企画である、葛尾村の視察に参加しました。葛尾村は全域が帰宅準備区域となっており、現在人はだれも住んでいません。平坦な土地と言う土地には汚染土が入ったフレコンバッグが山となって積み上げられており、帰宅後の生活の困難さを感じさせました。
 - ・ 他県の様子を見ると、青森県にも自然保護団体連絡会のような連絡組織があれば、大きな問題に協力して取り組めるのではないかという感想が出されていました。今後検討をしたいと思います。



(表紙の画像も含め、花田一雄氏より提供いただきました)

第3号議案 2016年度活動方針

- (1) 岩木山講座を観察会・シンポジウムを含め年6回、一般市民の参加のもと行う
 - ①係を決め写真の記録を残す
 - ②参加者の感想文も係が依頼する
- (2) 岩木山写真展を例年のように行う
 - ①場所 NHKギャラリー
 - ②平成29年2月3～5日
- (3) 弥生スキー場跡地を長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする(観察と学習を市民と協力し行う)
- (4) 岩木山の自然調査を進める
 - ①市民参加の観察会や調査会を行い、結果を記録に残す
 - ②弥生跡地の動植物調査をウォッチング青森と協力し行う
 - ③長平登山道の湿地調査を継続して行う
 - ④個人による調査への協力と援助
種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)
- (5) 岩木山の環境保全に寄与する
 - ①登山道整備を関係機関に働きかける
 - ②岩木山に関する情報を市民に伝える
 - ③ミズバショウ沼のススキの刈り払いをし、ゴマシジミの保護を進める
- (6) 東北自然保護の集い山形大会へ参加する
- (7) 会報を年3回発行する(4月・9月・12月)
- (8) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)
- (9) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する